

2021年度(令和3年度)

人権尊重をめざす人権作品紹介

人権作品 詩部門 《入選者》

野洲小2年 島田 泰帆
 中主小4年 中西 孝清
 祇王小5年 森 くるみ
 中主中3年 和井田 朋香

中主小3年 澤 彩椰
 北野小5年 東 さおり
 三上小6年 北野 夢乃

野洲小3年 林 優乃
 祇王小5年 林 椰々子
 中主中1年 林 千里

心のトビラ 祇王小5年 森 くるみ

心のトビラは閉ざされている
 不安なことがいっぱいある

差別やいじめでこのトビラは
 もっとあつくかたくなる

でもやさしい言葉や
 あたたかい言葉は
 トビラをひらくカギになる

そのカギをにぎって
 勇気を出して
 広い世界へふみだそう



輝く世界 中主中1年 林 千里

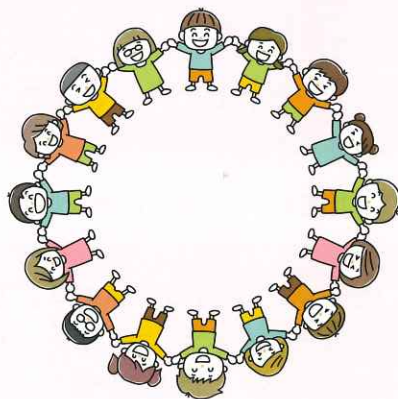
わたしが笑顔になる
 それを見て周りの人も笑顔になる
 その周りの人の周りの人も笑顔になる
 そしていつかわたしが笑顔が
 かえってくる

わたしがありがとうという
 それを見て周りの人もありがとうという
 その周りの人の周りの人もありがとうという
 そしていつかわたしがありがとうが
 かえってくる

もし、世界中のみんながわたしになったら、
 ひとりひとりが輝く世界になる

友達の声 北野小5年 東 さおり

「ありがとう」って言われたら 嬉しい
 「頑張れ!!」って言われたら やれる気がする
 「大丈夫?」って言われたら 気持ちが悪くなる
 「一緒にやろう」って言われたら 勇気が出る
 「あなたなら出来るよ」って言われたら 自信が湧く
 日常のかけがえのない一声で 人は救われる
 それって生きてて 一番幸せな事じゃない?



きたのしょうねん 北野小4年	まつしたりゅうま 松下 隆真	きたのしょうねん 北野小4年	のむらゆう 野村 悠羽	しのはらしょうねん 篠原小5年	よしだまなみ 吉田 愛実
やすししょうねん 野洲小6年	そのだえこう 園田 回空	やすししょうねん 野洲小6年	たおかのほ 田尾 奏葉	ちゅうずしょうねん 中主小6年	いまいあいさ 今井 愛彩
やすきたちゅうねん 野洲北中1年	わたなべまこ 渡辺 真子	やすちゅうねん 野洲中2年	こばやしけんじ 小林 研志	やすちゅうねん 野洲中2年	かわばた 川端 ころこ
やすきたちゅうねん 野洲北中2年	かとうやまと 加藤 大和				

男女平等

やすししょうねん そのだえこう
野洲小6年 園田 回空

私たちの学年から、野洲中学校の制服が変わり、女子生徒もズボンを履けるようになりました。自転車に乗る時に動きやすいし、寒がりの私は暖かいほうがいいので、ズボンを選ぼうと思っています。女性がスカートを選ぶのが当たり前という世の中の考えに、少し反抗してみたいと思う気持ちもあります。なぜ、今制服が変わるようになったのか考えてみました。男性だからズボン、女性だからスカートなど、そういった決めつけをなくすための第一歩ではないかと思いました。

私は小学校4年生の時に、好きなアイドルグループがいて、その中で応援していた人は、男性の心を持った女性の方でした。心と体が一致しないことで、すごくしんどい思いをしていたけど、理解のある仲間と出会って、アイドル活動をしています。ジェンダーレスという言葉を知り、その人の男性として生きたい思いを聞いて、世の中にはいろいろな人がいることが分かりました。その人がステージに出ることで同じ悩みを持つ人に勇気を与えることが出来ているかもしれません。

今でこそ、テレビでたくさんのジェンダー

レスの人が活躍していますが、私のお母さんの時代には、まだまだ、そういう人に対しての偏見はあったそうです。だから、私が好きで好きなアイドルのことを話すと、そういう方たちにとって、少しでも住みやすい世の中になってきたのかなあって、話していました。また、そういう人かっこいいって思う、えこうは、すごくいいなあって言われました。

私は、小さい時から、みんなよりも、人権について考える時間がたくさんあったと思います。まだまだ分からないことばかりですが、人権の学習は、勉強するものではない。自分がどういう風を感じて、感じたことを形にして、行動に移すことだとお母さんが言っていました。

もし、まわりに、ジェンダーレスの人に対して、偏見を持つ発言をする人がいたら、私がちゃんと理解して伝えることが出来るようになりたいです。

制服のズボンを選んだことで、中学校に行くと、周りの友達にはスカートの人ばかりかもしれませぬ。ズボンを履いていることで、何か言われても、「それが私だから」と笑って言えるようになりたいです。

介護とは

やすきたちゅうねん かとうやまと
野洲北中2年 加藤 大和

僕には95歳の曾祖母がいます。5年前位から、曾祖母が何度も同じ事を言ったり、行動したりして、「おかしいな」と思っていました。

病院で脳の検査をした結果は認知症でした。予想はしていましたが、やっぱりショックでした。認知症は身近にあるのだ、と実感しました。

診断されてから、今まで見えなかった部分が
たくさん見えてきました。好きな物しか食べ
ないこと、自分を清潔に保とうとしないこと、
今していたことをすぐに忘れること…。本当
にたくさんの部分が見えてきて、すごく嫌だ
と、思っていました。「病気のせいだ、年の
せいだ」と、自分の中で納得しようと思っただ
けど、納得できずにいます。

僕も小学生の頃は、曾祖母に何かと声をかけ
たりしていました。けれど、日が経つごとに何
度も同じことをする曾祖母がうっとおしくなり、
あまり声をかけなくなりました。本当は教えて
あげないと思うのに、曾祖母について素っ気な
い態度をとってしまいました。曾祖母を邪魔者
のように思ってしまう自分が本当に嫌です。僕
はこうして曾祖母から逃げてしまったように思
います。しかし、祖母だけは違いました。ずっ
と曾祖母の世話をし続けています。グチを言う
ときもあるし、すごく疲れてグッタリしている時
もありますが、それでもやる事はやっています。
それは本当にすごいことだと思えます。きっと、
今の僕には耐えられないことだと思えます。

今、祖母は曾祖母の世話をほぼ一人で引き
受けています。そんな祖母を見て、僕は自分
が何もできないことにいらだっていました。

やろうと思うのに、行動にうつせず、祖母が
大変な思いをするのを、ただ見ているだけで
した。今、ニュースや新聞では、介護を苦に
自殺をしたり、介護放棄や殺害という事件を
目にします。曾祖母が認知症と分かるまでは、
「そんなひどいことが起こるのか」と思ってい
ました。しかし、曾祖母の認知症が進んでから、
介護の辛さを感じました。そして、介護とい
うのは、外からは見えない、逃げられない責
任なんだと感じました。僕は、祖母を助けら
れるようになりたいと思っています。そして、
ニュースのような事件が少しでも減る手助け
ができればと考えています。世の中には祖母の
ように大変な思いをしている人が多いと思
います。そして、少子高齢化社会の今、一人に
かかる介護の負担も増えているはずです。そ
の大変さ、辛さを知ったからこそ、僕は介護
の負担を少しでも軽くできたらと考えました。

介護は、人ごとではありません。いつ、何
があるか分からないし、自分だっていつかは
介護を受けるでしょう。僕はこれから、少し
ずつでも目をそらさず曾祖母と向き合ってい
こうと思っています。一人一人が目をそらさ
ないこと。それが、介護をする上で大切なこ
となのではないかと思います。

人権作品 標語部門 《入選者》

だいじょうぶ こまっていたら たすけるよ
ありがとう えがおがいっぱい うれしいな
あいさつは みんなえがおに なるまほう
がまんせず 自分の気持ち 伝えよう
大丈夫 やさしい声で あたたかく
マスクでも 見えない笑顔で あいさつを
その一言 ときにはナイフに 変わりゆく
だいじょうぶ? その一言の ありがたさ
SNS 書いた言葉に 責任を
その言葉 自分に向けて 言えますか

ぎおうしょう ねん 祇王小1年	はた えい と 機 瑛人
ちゅうずしょう ねん 中主小1年	なかじま いく え 中島 育枝
ぎおうしょう ねん 祇王小3年	おおしま ち あき 大島 千明
やしゅうしょう ねん 野洲小4年	かいげ ゆい な 海下 結菜
みかみしょう ねん 三上小4年	こじま りゅう た 小嶋 隆太
ちゅうずしょう ねん 中主小4年	あずま まい 東 舞衣
やしゅうしょう ねん 野洲小5年	あきおか こうすけ 秋岡 昊佑
ちゅうずちゅう ねん 中主中1年	にし た さや か 西田 彩花
やしゅうきたちゅう ねん 野洲北中2年	うえ た ゆう へい 植田 侑平
やしゅうちゅう ねん 野洲中3年	かわなみ てつ た 川波 徹大

じんけん さくひん 人権作品 ポスター部門

にゅうせんしゃ 《入選者》



やしゅうねん 野洲小1年
いいたくま 飯田 拓真



ぎおうねん 祇王小2年
こぼやしとうま 小林 聖茉



みかみねん 三上小3年
たなかゆいな 田中 唯菜



しのはらねん 篠原小3年
いかりまこ 井狩 真子



やしゅうねん 野洲小4年
まつたかそうた 松高 奏太



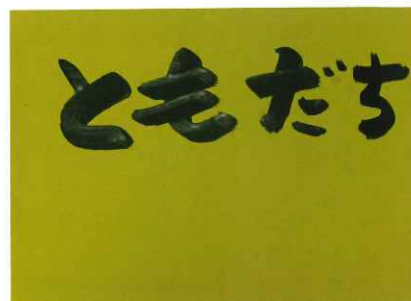
ちゅうずねん 中主小5年
いまいはな 今井 花



やしきたちゅうねん 野洲北中1年
すずきゆずみ 鈴木 優澄



ちゅうずちゅうねん 中主中1年
いまいしおん 今井 誌音



やしゅうごしょうこうぶねん 野洲養護小高部6年
いなやゆうた 稲家 優太